

## 全日本選抜体重別選手権大会 1日目

波乱の幕開け

若手選手が大活躍

男子 60kg 級・66kg 級・73kg 級、女子 63kg 級・70kg 級・78kg 級・78kg 超級の7階級が、4月としては肌寒い福岡で、熱く行われた。今回の大会は今夏アゼルバイジャンの首都バグーで開催される世界選手権大会の代表最終選考会でもある。

大会は男女とも優勝候補といわれる選手が初戦敗退するなど、波乱の幕開け。明日2日目は男子中重量級、女子軽量級の7階級が行われる。

### 【男子】

#### 60kg 級

世界選手権代表の座がすでに内定している高遠直寿（パーク24）が出場を見合わせ、戦いは永山竜樹（東海大4年）と志々目徹（了徳寺学園職）の2枠目争いかと思われた。しかし、初戦で永山が米村克麻（センコー）に、志々目が大島優磨（旭化成）に敗退。決勝ではこの両雄を破った二人の顔合わせとなり、大島が初めてのタイトルを獲得した。

優勝：大島優磨

「シニアの大会に出場するようになって4年、日本一になることができ、ようやくスタートを切れた気持ちです。初戦の対戦相手・志々目選手とは5回戦って5回負けていますので、今回はしっかり研究してきました。強い高遠選手、永山選手を倒して2020東京に出られるよう頑張ります」

#### 66kg 級

この階級の第一人者・阿部一二三（日本体育大3年）はすでに代表が内定。その阿部追撃の一番手は誰なのか、注目が集まった。決勝は昨年の講道館杯を制し、GS東京、GSパリではいずれも2位という好成績を出している丸山城志郎（ミキハウス）と、2月のGSデュッセルドルフを制した田川兼三（筑波大4年）という顔合わせ。丸山が試合終了間際になって放った巴投げで「技あり」を奪い、初優勝を決めた。

優勝：丸山城志郎

「ここで負けているようじゃ話にならないと、一つひとつ大事に戦ってきました。コーチとして帯同してくださった穴井隆将先生には、毎日厳しく指導していただいていますし、今日も先生のアドバイスあつての優勝だと思っています。天理らしい一本を取る柔道でこれからも世界で戦っていきたい」

### 73kg 級

今年2月のGSデュッセルドルフで五輪王者らしい戦いを見せた大野将平（旭化成）。しかし、講道館杯、GS東京を制し勢いに乗る立川新（東海大3年）を、初戦で倒して勝ち上がってきた講道学舎の先輩で66kg級から階級を上げてきた海老沼匡（パーク24）に合わせ技で一本負けを喫した。決勝は勢いに乗る海老沼と、昨年の世界選手権を制した橋本壮市（パーク24）との同門対決に。勝者は橋本。「技あり」を奪い、2連覇を決めた。

優勝：橋本壮市

「日本人同士の対決はちょっとしたことで勝敗が決まるので、そこを考えながら戦いました。決勝は大野選手との対決が理想でしたが、同じ所属の海老沼先輩でやりにくかったです。世界2連覇という次の目標に向けて頑張っていきたい。目の前の選手を一人ひとり倒していくことが東京につながると思っています」

## 【女子】

### 63kg 級

階級の第一人者・田代未来（コマツ）は工藤千佳（JR東日本）に試合開始1分過ぎに内股で「技あり」を取られ、初戦で姿を消す。決勝は昨年全日本ジュニア、世界ジュニアとジュニアの世界を制してきた荒木穂乃佳（兵庫県警）と、昨年本大会2位で今年のGSエカテリンブルグで優勝した能智亜衣美（了徳寺学園職）の戦いとなり、反則勝ちで能智が女王の座についた。

優勝：能智亜衣美

「最初に“指導”が取れる展開ができれば、とそこを考えて今日は戦ってきました。今日は内容的にあまりいい試合ではありませんでしたが、優勝という結果だけは良かったと思います」

### 70kg 級

昨年世界選手権で頂点に立った新井千鶴（三井住友海上）、講道館杯優勝の新添左季（山梨学院大4年）、そして昨年アジア選手権、GS東京、今年のGSデュッセルドルフを制した大野陽子（コマツ）の3人に注目が集まった大野が準決勝で新添を破って決勝は新井と大野の対決となる。実力拮抗の両者だが、試合開始からわずか1分31秒、大野の鮮やかな背負い投げが決まった。オール一本勝ちという素晴らしい内容での初優勝となった。

優勝：大野陽子

「1試合1試合、自分の柔道を出し切ることで考えて戦いました。新井選手とは何回も試合をしていますので、いま自分いできることを精一杯やって自分の柔道ができればと思って戦った結果です。世界選手権に出て試合がしたいです」

### 78kg 級

リオ代表の梅木真美（ALSOK）、GS東京を制した濱田尚里（自衛隊体育学校）、そして先のGSデュッセルドルフで栄冠に輝いた佐藤瑠香（コマツ）と、誰が頂点に立つのか注目が集まったこの階級。制したのは、講道館杯3位で先のGSエカテリンブルグで優勝した高山莉加（三井住友海上）。初戦で梅木を合わせ技で、準決勝では佐藤を抑え込み、決勝では濱田から合わせ技と、すべて一本勝ちの完全優勝を成し遂げた。

優勝：高山莉加

「いつも、どんな時も応援してくださる三井住友海上のみなさんの気迫に負けたよう、自分も気迫ある試合を心がけました。世界選手権の代表の座への準備はいつでもできています。よろしくお願いします」

### 78kg 級

朝比奈沙羅（パーク24）が君臨するこの階級。それに対して、前日会見で「私が優勝していい流れをつくって、（同学年で仲のいい）阿部（詩）選手に渡したい」と語っていた素根輝（南筑高3年）。その言葉通り、稲森奈見（三井住友海上）らを破って勝ち上がり、宣言通り朝比奈と決勝戦へ。4分の試合時間では大きな相手は動かず、2回指導を取られ追い込まれた。ゴールデンスコアに入ってから逆転、疲れの見え始めた朝比奈から指導を奪い、涙の初優勝を飾る。試合時間はトータル11分56秒だった。

優勝：素根 輝

「朝比奈選手にはずっと負け続けていますので、この大会では絶対勝とうと、思い小さい選手でも勝てるんだという気持ちで戦いました。去年からの2連覇となりますが、今年は朝比奈選手を倒しての優勝なのでとても嬉しいです」